

特別読み切り

食育 Essay 54

食から元気なからだと豊かな心を

日常生活のありふれた光景の中にある食卓
その大きさや椅子の数
食卓を囲む時間は
家族の成長と共に変化していく



辰 年最初の朝食は、いつもは帰省するはずの妹が帰ってくることができなかつたために、なんとなくお正月気分になれず、帰省した時にいつも座る席に置いている犬のぬいぐるみの顔を父が撫でながら、少し寂しそうに感じているように思えた元旦の食卓。

「ご はんですよ～」と言う母の声に、家族全員が食卓に着いた時の様子は今でも思い出すことができる風景。あまり大きくはない長四角の食卓の長辺には父と母が、そして向い合せて私と妹が、祖母は短辺に座り、家族5人で食卓を囲んだ幼少期。祖母が他界した中学3年生の夏までは、それが定番の食卓の風景でした。

空いた席に寂しさを感じながら食事をとったのもわずかな時間で、高校から自由学園で学ぶために上京した私にとっては、8人部屋の寮での食卓が新たな食事の風景に。緊張しながら、ホームシックに涙が出た時も、食事の時間だけは同じお部屋の友と寮生が作った食事を口に運びながら楽しい時間が過ぎ、食べ盛りでしたので、おかわりできることに喜びを感じた記憶がよみがえります。

東京で妹と二人暮らしを始めた時は、小さな机に二人が向き合って、それぞれが作った料理を批評しながら食べたものです。新しい家族を持つてからは、流しに一番近い場所が私の席として与えられ、飼犬までが食卓にいるという私にとってはギョッとする食卓も。どの家庭にもあり、日常生活のありふれた光景の中にある食卓ですが、その大きさや椅子の数、そして食卓を囲む時間は、その家族の成長と共に変化していることに気がきます。

先日、県外からのお客様の八戸案内で是川縄文館を訪れ美しく形作られた土器の数々を目にした際にふと、どんなふうにかきこみ、食事をしていたのかしらと、縄文人の食卓を想像した私。食という営みがある限り、そこには様式は異なっても食卓があり、食卓を囲む家族があったのだと。

さ あ、時が流れ自然はめぐり春がきます。「春よこい、はやくこい♪」固い土から勢いよく顔を出す新芽をいただく、潤子センセイが大好きなこの季節！
ウエルの皆さん、春をよろしく！

- 書き手 - 千葉幼稚園 園長 岡本 潤子

